

るいは、奈良県内の既存の企業を支援したりして、売上げを上げて税金をたくさん納めていただけるような政策にも取り組んでいきたいと思っていますし、国等に働きかけをして、国からの財政的な支援も受けていきたいと思っています。

川村（奈）議員ご指摘のとおり、本当に教育、子育て支援は、ますます充実していかなければならない分野の政策だと思っていますので、しっかりと財源を確保して、ますます充実させていきたいと思っています。

ご質問ありがとうございました。

### ○藤村高校生議長

再質問はありますか。

ないようですので、次の質問を行います。

次に、県立香芝高等学校、9番、橋渡幸青議員、10番、原田美和議員に発言を許します。

### ○橋渡議員

9番、橋渡幸青です。県立香芝高等学校の紹介をします。

県立香芝高等学校は、魅力と活力のある学校です。私たちは、「元気いっぱい 一歩前へ」のスローガンの下、「夢に挑戦」を合い言葉として、明るく、素直で、チャレンジ精神にあふれる生徒となることを目指して、勉強や部活動に励んでいます。



（県立香芝高等学校 橋渡 幸青 議員）

本校には、普通科と普通科表現探究コースの2つのコースがあります。表現探究コースでは、通

常の授業科目に加えて、これからの将来に役立つ情報活用能力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の3つの能力を身につける学習を行っています。具体的には、1年生で新聞記事作成や中学校恩師へのインタビュー、2年生でSDGsに関するプレゼンテーションや香芝市シティープロモーション、3年生では個人探究活動などを行っています。また、大和高田市にあるラジオ局のFMヤマトで「香芝高校8時間目ラジオdeひょうたん」という番組、王寺町にあるラジオ局、FMハイホーで「はいほー！香芝高校やまびこラジオ」という番組を持たせていただき、県立香芝高等学校の魅力や日々の取組などについて放送しています。このようなメディアを活用した取組は、ほかの学校では味わうことができない貴重な経験だと思います。

このような活動を通して、これからの社会で役に立つ能力を身につけられるように、日々様々なことに取り組んでいます。学校紹介は以上です。

### ○原田議員

10番、原田美和です。災害時における医療体制の充実に向けた対策について質問いたします。

私には看護師の父がいます。父に看護師の立場から奈良県の医療体制についての考えを教えてほしいと尋ねたところ、奈良県の医療体制はまだまだ充実していないところがあるという答えが返ってきました。具体的な医療体制が充実してないところとして、医療従事者の不足や病院での診察に至る待ち時間の長さ、災害医療体制の弱さなどがあると感じているとのことでした。

私は、その中でも特に災害医療体制に着目しました。奈良県の災害医療体制について、奈良県保健医療計画によると、奈良県では、災害医療チーム（DMAT）や災害拠点病院などが整備されています。しかし、十津川村など、13の市や村から成る南和保健医療圏では、災害拠点病院は南奈良総合医療センターの1つしかなく、災害拠点病院から遠い地域では病院までかなりの距離を移動しなければなりません。また、大阪府では、災害

が起こったときに大阪府から大阪府看護協会を通じて協会に登録している看護師のいる病院へ連絡が入り、大阪府と病院が連帯する体制があると聞きましたが、災害時には、このような県と病院との連携が重要になると思います。



**(県立香芝高等学校 原田 美和 議員)**

日本は、世界でも有数の地震大国です。今後30年以内に70～80%の確率で起こるとされている南海トラフ巨大地震が発生した場合、関西をはじめとする西日本に甚大な被害をもたらすと言われています。大きな災害が起こったときに、現在の災害医療体制で重篤患者の受入などの対応が十分にできるのでしょうか。

そこで、医療政策局長に質問いたします。近い未来に起こる可能性のある大震災の対策の一環として、災害医療体制の充実や災害拠点病院の整備は必須の課題であると考えますが、そのことについては、どのようにすべきとお考えでしょうか、お聞かせください。

**○通山医療政策局長**

災害時における医療体制の充実に向けた対策についてご質問いただきましたので、お答えいたします。

災害発生時に提供すべき医療は、時間の経過に伴い変化するため、状況に応じ、関係機関が連携することが必要となります。特に災害急性期には、被災地へ重点的に医療資源を投入して、救命医療を行い、重症患者を被災地外に搬送することで、助けられる命を一人でも多く助けることが重要と

なります。



県では、重症患者の受入れなどを行う地域災害拠点病院を県内5つの保健医療圏ごとに整備しているほか、災害医療の中心的役割を担う基幹災害拠点病院として奈良県立医科大学附属病院を指定しています。また、重篤な患者を被災地外に搬送する際には、奈良県ドクターヘリが活躍いたします。多数の患者搬送が必要な場合に備え、隣県のドクターヘリと相互に応援する体制に加え、本年4月から関西広域連合に全面加入したことにより、管内の8機体制による広域医療体制の充実にも取り組んでいるところです。

このような災害拠点病院や広域医療搬送で活躍するのがDMATと言われる医療チームであり、災害発生直後の急性期に県内外から集まり活動します。県内でも本年4月時点で10病院に24チームが整備されています。今年の能登半島地震においても、延べ15チーム72名を現地に派遣いたしました。加えて、発災3日目以降に被災地等に派遣され、被災者が健康レベルを維持できるよう、看護支援活動を行う災害支援ナースについて、本県では令和5年3月末時点で138名の登録があります。本年4月からは、県と各病院で協定を締結し、県が派遣調整する体制を構築しています。

こうした体制整備はもちろん、有事への備えとして、平時からの訓練も大変重要です。毎年、県が主催する防災総合訓練では、県医師会などの医療関係団体と連携し、医療救護訓練や避難所訓練を実施しています。

引き続き関係機関と連携するとともに、災害拠

点病院の機能強化を図るなど、より充実した災害医療が確保される体制を構築してまいります。

ご質問ありがとうございました。

### ○藤村高校生議長

再質問はありますか。

ないようですので、次の質問を行います。

次に、県立国際高等学校、13番、岸部暦議員、14番、下村晴議員に発言を許します。

### ○岸部議員

13番、岸部暦です。県立国際高等学校の紹介をします。

県立国際高等学校は、2020年に開校され、多様な人々との積極的なコミュニケーションを通して、グローバルな視点で物事を捉え、国際社会の平和と発展に貢献する資質、能力を身につけることを私たちのミッションとしています。2023年には国際中学校も開校されました。



(県立国際高等学校 岸部 暦 議員)

本校には特色のある授業がたくさんあります。そのうちの2つを紹介します。1つ目は、世界の言語という授業です。この授業では、真の国際人を目指すために、英語だけでなく、韓国語、中国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語をネイティブの先生から学ぶことができます。また、それぞれの国の文化や伝統などを学び、多様な文化や考えに触れることができます。2つ目は、グローバル探究という授業です。この授業では、SDGsなど、世界規模の問題について、ただ学ぶだけ

でなく、世界的な課題を自分事として考え、身近なもの結びつけながら、自分たちにできることを考えます。持続可能な社会を目指して、一人ひとりがどのような行動を取るべきなのかを探究しています。県立国際高等学校では、ディベートやプレゼンテーションなど、自分の意見を自分の言葉で話す授業が多いため、自分の考えをまとめて、相手に伝える力を身につけることができます。また、いろいろなルーツを持った人や留学生が多くいるため、積極的なコミュニケーションを通して、多様な考え方や文化を知ることができます。

このように、私たちは県立国際高等学校で強い探究心と主体性を持ち、真の国際人になれるように日々活動しています。学校紹介は以上です。

### ○下村議員

14番、下村晴です。県内の観光地の公共トイレについて質問します。



(県立国際高等学校 下村 晴 議員)

奈良県は、国内外から多くの観光客が訪れる観光地ですが、私は、観光地に必要な公共のトイレの整備が十分とは言えないと感じています。実際、学校のフィールドワークで奈良公園を訪れた際に、奈良公園のトイレにごみが放置されている状況が見られました。また、バリアフリーの視点から見ると、トイレに行くまでに階段があったり、トイレの入り口に段差があったりと、足に障害がある人や車椅子の人が自力でトイレまで行くことが難しい状況が多く見られました。また、奈良公園には、奈良県が管理するトイレが21か所あります

が、そのうちオストメイトの方に対応しているトイレは6か所と、多くの方が訪れる観光地としては少ないように感じます。

そこで、他府県の観光地の公共トイレについて調べてみると、例えば京都市の平安神宮では、民間の社会貢献活動やネーミングライツ権等を活用し、トイレ全体を汚れにくくするために、壁面全体に防護コートを施したり、外壁の全面塗装、消臭装置の設置、照明のLED化などの改修が行われています。このような取組を奈良県でも行ってはどうでしょうか。また、京都市では、オストメイトの方に対応しているトイレが増えていることに加え、オストメイトナビというスマホアプリケーションでオストメイト対応のトイレの場所を検索することができ、オストメイトの方が安心して観光することができます。私は、奈良県も公共トイレの清潔さを維持する仕組みや公共トイレのバリアフリー化の充実を図るべきと考えます。特に多くの方が訪れる観光地の公共トイレを整備することによって、より多くの方が安心して奈良県に来ていただけるようになると思います。

そこで、知事に質問です。奈良県として、公園を含めた観光地の公共トイレの清潔さを保つための取組や公共トイレのバリアフリー化に対して、今後どのような取組を計画しているのでしょうか、お聞かせください。

## ○山下知事

ご質問ありがとうございます。

ご指摘のように、観光地の公共トイレの清潔さを保つための取組や、公共トイレのバリアフリー化は大変重要であると思っております。

ご指摘のあった奈良県の主要な観光地の一つである奈良公園には、外国人の観光客をはじめ、多くの方にお越しいただいております。下村議員がお述べの奈良公園の公共トイレについては、誰もが利用しやすく、清潔感あふれるものとするために、平成29年度から順次トイレのバリアフリー化を図っているところです。現在、奈良公園内に21か所あるトイレのうち、平たん部にあります

16か所については、洋式化が完了しております。このうち、利用頻度が比較的高く、老朽化が著しいトイレについては、トイレの建て替えと合わせて、オストメイトの整備も行っております。奈良公園で洋式化されていない若草山山頂や春日山遊歩道などの山間部のトイレを含めまして、奈良県が運営している都市公園におけるトイレにつきましては、令和6年度から5か年の期間をかけまして、洋式化、ベビーチェアの設置、おむつ交換台の設置など、様々なバリアフリー化をこれから進めていきたいと思っております。

観光地におけるトイレにつきましては、県が設置しているもの以外に、市町村や観光協会等が設置しているトイレもあります。こうした県以外の団体が設置したトイレの洋式化や機能向上などに向けまして、奈良県では、令和2年度に補助制度を設けまして、整備を行う場合には財政的な支援を行っているところです。具体的には、奈良市の西ノ京、葛城市の二上山、三郷町の信貴山、明日香村の石舞台古墳などの観光地にある公共トイレの機能向上の取組に県が補助金を出して財政支援を行ってきました。

これからも引き続き、観光地の公共トイレをはじめとして、観光客の受入れ環境の向上を行う各地域の取組に対して支援を行って、観光地としての魅力を高めたいと考えております。

ご質問ありがとうございました。

## ○藤村高校生議長

再質問はありますか。

ないようですので、次の質問を行います。

次に、奈良女子大学附属中等教育学校、17番、島田葵議員、18番、山本ゆい議員に発言を許します。

## ○島田議員

17番、島田葵です。奈良女子大学附属中等教育学校の紹介をします。

本校は、男女共学の全生徒約720人の中高一貫校です。明治時代に設立されてから、約110

年を超える歴史があります。



**(奈良女子大学附属中等教育学校 島田 葵 議員)**

本校は、「自由・自主・自立」を尊重しています。例えば修学旅行や全校レクリエーションの行き先の決定、企画の立案、当日の運営など、全て生徒が中心になって行っています。また、同様に、学園祭でも生徒が中心になってあらゆることを行います。生徒の自由な発想と新しいことをやりたいという情熱、また、そのイベントに対する愛情などによって、毎回全く違う学園祭がえられるのもこの学校ならではの魅力です。また、本校は、2005年からスーパーサイエンスハイスクールに指定され、理数系の活動にも力を入れており、全国大会や世界大会で多くの受賞者を輩出しています。

勉強以外にも、東日本大震災の復興支援を行う「ならふく」や、国際交流プログラムのAYFなども行っています。また、地域奉仕や国際貢献に取り組む活動、インターアクトも活発に行っています。今年の11月初旬には、防災と災害をテーマにした交流プロジェクトが開催されます。本校がホスト校となり、奈良女子大学で他県のインターアクトの生徒とディスカッションを行います。

このように、本校は、様々な分野で貴重な体験ができる学校です。学校紹介は以上です。

**○山本 (ゆい) 議員**

18番、山本ゆいです。観光客の誘致と効果的な観光情報発信について質問します。

来年4月13日から大阪・関西万博が開催され

るに当たって、隣接県である奈良県にも多くの観光客が訪れることが予想されます。令和6年度奈良県政策集によると、観光の振興については、2025年大阪・関西万博を好機と捉え、宿泊滞在型観光の推進を目標とし、主な施策の一つとして、観光情報発信、プロモーションの強化を上げ、大阪・関西万博を契機としたインバウンド及び国内旅行の誘客など、様々な取組を実施するとしています。私は、県でどのような観光情報発信が行われているのかということに興味を持ち、県のウェブサイト等を調べたところ、奈良県観光公式サイトやエックス、インスタグラム等のSNSを活用して、様々な方法で観光情報を発信していることが分かりました。



**(奈良女子大学附属中等教育学校 山本 ゆい 議員)**

しかし、県が作成しているサイトやSNSには、こちらが検索しないとたどり着くことができません。私も検索するまで、このようなサイトやSNSが存在していることを知りませんでした。奈良県の観光に関する情報をもっと効果的に発信するには、情報を必要な人が検索してアクセスするのを待つだけではなく、もっと積極的に情報を伝える仕組みが必要だと思いました。

また、インターネット等で奈良県の観光について調べると、奈良県北部に関する情報が多いように感じます。実際に奈良公園周辺には毎日多くの観光客が訪れています。奈良県を訪れる観光客が増えることはうれしいことですが、一部の地域で観光客が増え過ぎると、近隣住民の迷惑になったり、交通の妨げになったりする問題が生じる可能

性があります。観光情報は発信の仕方によって一部の地域に観光客が集中してしまうことも考えられるので、観光客の増加が新たな問題とならないように、どのように観光情報を発信するのかを考える必要があります。

そこで、観光局長に質問します。大阪・関西万博の開催を機に、多くの観光客が奈良県を訪れることが予想されますが、奈良県を訪れる観光客に対して、効果的な情報発信を行うために、奈良県としてどのような取組をお考えでしょうか、お聞かせください。

### ○竹田観光局長

観光誘客の目的は、県内での宿泊滞在、観光消費を促し、地域経済を活性化することと考えております。そのため、観光情報の発信においては、宿泊や消費につながる市場やターゲットに向けて取り組んでいるところです。



例えば国内向けの発信では、時間と予算にゆとりのある中高年層をターゲットに、本県の特徴である歴史文化や自然環境、食文化などの情報を「祈りの回廊」などの冊子により発信しております。また、宿泊滞在につながるよう、首都圏の在住者に対しては、メディアや公共交通広告を活用するほか、若い世代につきましては、ティックトックなど、ショートムービーを活用したSNSのプッシュ型広告にも取り組んでいるところです。

また、インバウンド向けの発信におきましては、本県の観光資源への関心や宿泊滞在の可能性などの分析を踏まえ、ターゲットを絞り込んでSNS

やホームページ、旅行会社への営業などに取り組んでいるところです。

一方、山本議員ご指摘のとおり、観光客が奈良公園周辺に集中しているということが課題ということは十分認識しています。このため、県の中部、南部、東部の観光地の魅力向上にしっかりと取り組むとともに、情報発信におきましては、県内各地への周遊滞在につながるよう、奈良公園周辺以外の観光スポットや宿泊、体験などの情報を積極的に取り上げるようにしています。加えまして、現在、県内への旅行を検討されている方が、旅をする前、興味、関心のあるキーワードを入力するだけで、その人の趣味趣向に合わせた観光スポットなどを提案するというような最適な奈良旅のプランが表示されるウェブアプリを開発しているところです。今年の秋頃から運用を開始したいと考えています。これによりまして、利用者が興味を持ちそうな観光情報を、情報量の多い県北部に偏ることなく提供することが可能となり、県内各地への誘客につながると期待しています。

それから、大阪・関西万博を機に多くの観光客に本県にお越しいただけるように、今年の5月に締結しました大阪観光局との連携協定を生かして、大阪の持つ情報発信の強みを取り入れながら、一部の地域に偏ることなく、県全域に宿泊滞在と観光の消費のメリットが及ぶように、引き続きマーケット分析を踏まえた効果的な情報発信に努めていきたいと考えています。

ご質問ありがとうございました。

### ○藤村高校生議長

再質問はありますか。

ないようですので、次の質問を行います。

次に、県立五條高等学校、21番、山本真由奈議員、22番、本田好亜議員に発言を許します。

### ○山本（真）議員

21番、山本真由奈です。県立五條高等学校の紹介をします。

本校は、輝かしい歴史と伝統のある高校です。

私たちは、「質実・剛健・礼節」というすばらしい校訓を受け継ぎながら、高い志を持って勉学に励んでいます。また、部活動も盛んで、サッカー部、柔道部をはじめ、多くのスポーツや文化活動で活躍しています。新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されて以降、たくさんの学校行事が従来どおりの形に戻り、どの学校行事もとても盛り上がっています。特に今年の5月に実施された金剛登山は、天候にも恵まれ、標高1,125メートルを誇る金剛山に仲間と共に汗を流しながら必死に登りました。登山の間はともしんどかったですが、下山したときには、みんながすがすがしい笑顔だったことがとても印象に残っています。また、本校には、オーストラリアの南東部、ビクトリア州にガートン・グラマー・スクールという姉妹校があります。平成5年に姉妹校関係を結んでから、オンラインでの交流やお互いに留学生を派遣するなど、様々な交流を行っています。コロナ禍は、オンラインでの交流が中心でしたが、今年の1月には、ガートン・グラマー・スクールから3名の留学生が県立五條高等学校に来てくれました。また、3月には、本校の生徒12名がガートン・グラマー・スクールに2週間の短期留学に行き、語学や文化を学ぶために積極的に活動しました。



(県立五條高等学校 山本 真由奈 議員)

このように、私たちは、これまでの先輩方が築いてこられた伝統を継承しながら、さらなる飛躍を目指して、様々なことに全力で挑戦しています。学校紹介は以上です。

## ○本田議員

22番、本田好亜です。過疎化対策と魅力的なまちづくりについて質問します。

奈良県の人口は減少傾向にあります。奈良県の推計人口調査によると、奈良県の人口はピーク時の平成11年の144万人から徐々に減少し、令和6年5月1日現在で約129万人となっています。人口が減少することにより生じる問題の一つに過疎化が上げられます。一般社団法人全国過疎地域連盟のホームページによると、奈良県では19市町村が過疎地域に指定されています。地方の過疎化が進むと、人手不足から農業などの産業が衰退したり、商店がなくなったりと、その地域の活気が失われ、ますます過疎化が進んでしまいます。



(県立五條高等学校 本田 好亜 議員)

もちろん奈良県でも過疎化対策を進めてこられ、道路網や高速インターネット接続環境の整備を行い、非過疎化地域との格差は一定程度改善されているところもあります。しかし、奈良県の過疎地域における集落实態調査によると、過疎地域では、買物をする商店がなかったり、バスなどの公共交通網が行き届いてなかったりします。改善できていない問題はまだまだ多く残されていると感じます。

私は、過疎化を解決するためには、どの年齢層でも住みやすい魅力的なまちづくりを進め、県外からの移住者を増やすことが必要だと思います。少子化の要因として、男性も女性も仕事と育児の両立を図ることへの不安や、経済的な事情による

生活の不安などがあると言われていいます。地域の過疎化の解決に向けて、若い世代の方が安心して子育てをできる環境を整えることは、市町村の自治体だけでなく、奈良県全体で取り組むことが大事だと考えます。

そこで、知事に質問します。地域の過疎化解決に向けて県外からの移住者を増やすために、子育て支援制度などの充実など、若い世代が住みやすくなる魅力的なまちづくりを進めることが必要だと思いますが、これらの奈良県の過疎化対策について、どのようにお考えでしょうか、お聞かせください。

### ○山下知事

ご質問ありがとうございます。

本田議員がご指摘されたとおり、奈良県の人口は、ここ25年、減少傾向にあります。特に県の南部・東部地域におきましては、昭和30年の約25万6,000人をピークにして、その後一貫して人口の減少が進み、現在は当時の2分の1の13万5,000人に減少しております。これらの地域の多くの町村では、若年層だけではなく、高齢者の人口減少も始まるなど、本格的な人口減少時代に突入しております。

この人口減少の流れを止めることは大変難しいことではございますが、奈良県の魅力を高め、人口減少のスピードをできるだけ緩め、持続可能な地域づくりを進めたいと思っております。そのためには、南部・東部地域においても働く場所を増やし、子育て支援を充実するなど、住みやすい魅力的なまちづくりを進めることが重要だと認識をしております。

県では、そうした観点から、企業やホテルの誘致、農林業や観光への支援など、働く場所を増やす取組や、高校授業料の実質無償化、保育士の処遇改善、子育ては女性がするものであるといった性別役割分担意識の解消と男性の育児参加の促進、仕事と子育てを両立できる職場環境の整備など、子育て支援の取組を推進してきたところです。

加えて、南部・東部地域への移住・定住を進め

るため、奥大和移住定住交流センターengawaの開設や、大阪や東京での移住相談イベントへの出展、さらに、ワークショップやトークイベントの開催、加えまして、産官学連携による魅力ある地域づくりの支援など、この南部・東部地域の新たな魅力創出や情報発信の取組を進めているところです。

今後も、過疎化が進む南部・東部地域が若い世代にとって住みやすい魅力的な地域となるよう、市町村や関係機関と連携、協働し、雇用、子育て、福祉、医療、教育、交通、道路インフラ、防災など、地域が抱える様々な課題の解決に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

ご質問ありがとうございました。

### ○藤村高校生議長

再質問はありますか。

それでは、しばらく休憩します。

---

午後2時24分 休憩

---